

# 『太田川源流の森』森林保全活動



植林活動 枝打ち風景



太田川の源流



源流に生息する魚（写真中央）



源流の脇道に咲く野花

# 広島市指定上下水道工事業協同組合青年部会

担当役員 山本昌宏

実施日 平成18年10月21日(土)

参加者 総勢42名

内訳：組合員、従業員、家族、組合事務局(うち青年部会会員9名)

## 植林活動に参加

平成18年10月21日(土)、今年で6回目となる植林活動に、私共青年部会も参加させていただきました。

この活動は、水道事業の一翼を担う上下水道組合として、水についての将来を展望し、水源である緑の森の涵養あるいは川の環境保全など、原点から水質確保に努める為に、平成13年度から始まったものです。

会場の吉和町の「太田川源流の森」は、名水百選にも選ばれた広島市の「母なる川、太田川」の源である冠山が位置する源流域の森林です。広島市ではこの355ヘクタールにおよぶ森林を、平成10年度に取得されております。その森林の保全活動のお手伝いをさせていただこうという企画です。

年によっては、苗木を植える植林活動も行ってきましたが、本年度は昨年度に引き続き、成長した樹木の下枝を切る「枝打ち」を行う事となりました。この「枝打ち」を行う事により、太陽光が根元まで届くようになり、風通しも良くなり、森が元気になるのだそうです。

10時に集まったメンバーは、作業内容の説明を受けると、頭にはヘルメット、手にはノコを持って、颯爽と森へと入って行きました。急斜面の樹木が対象でしたので、目標とした木に辿り着くまで案外と苦労しました。どこからともなく「青年部会は上に登れ」との声が聞こえてきて、山の上へと押し上げられましたが、頂上まで辿り着けたのは、青年部会の中でも半数くらい(ホンマの青年)でした。約2時間、心地よい汗をかき、無事に作業は終了しました。

今年は広島県内でも、送水トンネル崩落による断水や、台風による水道本管の断裂の事故等があり、改めて「水」の大切さを考えさせられる一年でした。一人の力で出来る事は限られますが、皆で力を合わせて、大切な「水」を守っていければと感じました。